

お父さんの懐中時計

色丹島出身の得能 宏さん

得能宏さんは色丹島斜古丹に、お父さんの源治さん、お母さんのハツさん、宏さんを含むきょうだい六人とお爺さんの九人家族で暮らしておりました。宏さんは終戦当時小学校五年生でした。

この懐中時計は、お父さんの源治さんにまつわる思い出の品で、軍人だったお父さんが腰に長刀をさげ軍服の内ポケットにこの懐中時計を入れていたそうで、身長が百七センチメートル以上あったというお父さんが内ポケットから懐中時計を出して見ている姿が、子供ながらにすごく格好良く見えたとのこと。

宏さんは、昭和二十二年九月に樺太の真岡を経由して引き揚げてきましたが、この懐中時計はお母さんが大切にしまいいしうです。あまりに大切にしまつてあったので、宏さんが高校生になるまで存在に気がつかなかったとのこと。

色々調べてみると、この時計は今から百年から百二十年前に作られた物のようで、お爺さんが買ってお父さんに引き継いだものかもしれないとのこと。懐中時計はロンジン製の精巧な物なのですが、なにぶん古いもので壊れやすく、ねじを巻かないとすぐに止まってしまう

しまうそうです。宏さんは壊れる度に修理をして大切にしてきたので、現在もしっかりと時を刻んでいます。



現在は宏さんがお父さんの思い出の品として保管していますが、今後はお孫さん（裕史さん）に得能家の歴史と共に引き継いでもらう予定とのこと。

